

2023年7月27日(木) 14:00~16:00 ハイブリッド開催

「多問題を抱える利用者ケアについて」～精神疾患をもつ人を支える～

今回の研修は、さまざま問題を抱えた精神疾患をもつ人について、在宅療養支援について学び、情報共有・支援のあり方や課題について考えることを目的として開催しました。多職種67名の方がご参加くださいました。

座長：神戸市西区医師会 三宅内科医院 院長 三宅 仁 氏

[1部：講演・質疑応答]

テーマ：「80-50など地域で生活する精神障害のある方への対応」
～当院での事例を通して～

講師：新生病院 院長 宮軒 将 氏

[2部：事例検討会・パネルディスカッション・意見交換・質疑応答]

事例：「長年、幻聴と妄想に気付かずに過ごされた方の支援について」～精神科受診に至るまで～

パネリスト：新生病院 院長 宮軒 将 氏 ラヴィケアプラザセンター 管理者 植森睦子氏(事例提供)

訪問看護・リハビリテーション ラヴィー 管理者 金井 宴子氏 訪問介護事業所かいごの森 管理者 碓武由希子氏



座長：三宅医師



講師：宮軒医師

第1部

内容：精神科医療の現状、地域移行に必要なこと、地域移行の取り組み、事例紹介等について

*資料紹介：「正体不明の声ハンドブック統合失調症の治療をされる方へ」日本うつ病学会から

質疑応答：「同じ妄想がある方の対応」等について

第2部

事例紹介：独居、キーパーソンがいない。幻聴・被害妄想から地域との関係にトラブルを抱える高齢者事例。

パネルディスカッション：ケアマネジャー・訪問看護師・訪問介護員・医師の“役割と支援、気付き”等について。

意見交換：“気付き質問したい事”等

質疑応答：「緊急時受診できる病院」「身体保清を拒否される方の対応」「多職種連携について」等。



パネラー：植森氏



パネラー：金井氏



パネラー：碓武氏



学び

複雑な精神疾患患者支援には、多職種の情報共有が大切になる。要介護度が低いと介護サービス訪問回数が少ないが故の“多職種の役割分担・各専門職の思いを尊重しながらの情報交換について”を学んだ。今後事例アプローチの学びを、発展していただけたらと思います。



©2013kobe city No.R5-008



【成 果】

(アンケートより一部抜粋)

薬剤師) 宮軒先生のお話から精神疾患のある方の地域移行への取り組みがよく分かった

保健師) 多職種連携の大切さ、ケースに熱心にかかわって行くことの大切さ。精神科医師の見立て、薬調整は必要だと感じた

看護師) 疾患にもよりますが、持効性注射剤(LAI)については興味深かった。服薬や生活を整える事の重要性を再認識できた

PSW) 地域で精神障害がある方の支援をされているケアマネジャー、訪問看護師、訪問介護員の大変さを知ることができ、病院から地域へ戻られる際の連携をより丁寧に行っていきたいと思いました

ケアマネ) 専門職の助言をかりながらアプローチする必要性を実感しました

精神疾患を抱えている高齢の方も多いため、今回の学びを活かす事が出来ればと考えています

あんしんすこやかセンター) 困難ケースに対して、サービス関係者が連携して関わる、それぞれの役割や方向性を統一して関わる、それぞれの方の力を感しました

～多数のご意見ありがとうございました～